

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

第 10 回全国カキ・サミット三重大会 -3 月 3~4 日伊勢市にて-



3 月 3 日 (金)、伊勢市觀光文化会館において第 10 回全国カキ・サミット三重大会が開催された。本サミットは、全国各地のカキ生産者が一堂に会し、生産県共通の課題である品質の向上に向けた取組みと、生産性の向上、消費・流通対策等、幅広い持続的発展に寄与することを目的に開催されており、11 道県のカキ生産者のほか、水産庁や全漁連、行政、研究機関から約 170 名が参加した。県内開催は 1999 年の鳥羽市以来 18 年ぶりの開催。

主催者を代表して湯浅実行委員長より、「カキ養殖の現状を再分析し、今後の養殖に向けて必要なことを議論して頂く事で、カキ養殖を営む生産者にとって、継続的、発展的に取り組んでいけるものが見えてくれればと願っている」と挨拶があった。

基調講演では、「国産養殖カキの生産から消費までの再考」と題し、水産研究・教育機構 中央水産研究所 宮田勉氏による講演の後、みえのカキ安心協議会

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

会長（鳥羽磯部漁協浦村支所理事）村田孝雄氏より「みえのカキ安心情報の運用と今後の課題」として事例報告がなされた。続いて、「求められるカキと生産者が取組んでいくこと」をテーマに三重、岩手、宮城、岡山、広島の生産者らが取り組みを紹介するパネルディスカッションが行われ、鳥羽磯部漁協安楽島支所理事の竹本昭和氏から「消費拡大を進める全国的な組織として全国カキ漁連を作ろう」と呼び掛けた。

最後に、鳥羽磯部漁協浦村支所 中村善紀氏より大会宣言が行われ、次回開催県（平成 30 年度予定）である全国カキ・サミット岡山大会実行委員会 委員長 横山 満朋 氏による挨拶の後閉会した。



中村善紀氏による大会宣言

翌 4 日には、伊勢神宮内宮への奉納行事が行われ、県内外より約 120 名が参加し、大ぶりのカキ 200 個が奉納された。

また、伊勢市一志町の外宮北御門広場では、第十回「全国カキ・サミット三重大会」の消費拡大イベントが開かれ、カキ産地の 4 県が計 7,600 個、5,200 食分のカキを提供し、各ブースには長蛇の列

ができた。



カキ約 300 個が奉納された

全国青年・女性漁業者交流大会
-3 月 1 日(水)～2 日(木) 東京-



3 月 1 日～2 日の二日間、東京のホテルグランドアーク半蔵門において、「第 22 回全国青年・女性漁業者交流大会」が開催された。本大会は、全国の青年・女性漁業者が、日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により、知識や情報を共有・進化させることで、水産業・漁村の発展と活性化に資することを目的として JF 全漁連が開催しているもので、22 回目の開催となる今回も、各県から選出された青年・女性漁業者と関係者約 530 人が参加した。

大会は、①資源管理・増殖、②漁業経営改善、③流通・消費拡大、④地域活性化、⑤多面的機能・環境保全の 5 分科会に分かれて行われ、本県からは、③流通・消費拡大部門において、『伝統ある梶賀のあぶりで地域の活性化を』が水産庁長官賞を、④地域活性化部門において、『未利用資源活用の取組み-鳥羽・菅島

の漁師の挑戦-』が農林中央金庫理事長賞をそれぞれ受賞した。



受賞者の皆さん（梶賀まちおこしの会 中村氏：左）
(風の島フーズ 中村元彦・朱希氏)

漁業経営セーフティーネット構築事業
平成 29 年度の申込について

漁連指導部では、来年度の漁業経営セーフティーネット構築事業の新規申込と、継続加入者の数量設定申し込みを受け付けています。(3 月 17 日提出期日)

同事業は、燃油と配合飼料の価格高騰に備え、国と漁業者とがあらかじめ積立を行い、価格が一定の基準を超えた場合に積立金の範囲内で補填金が交付されるものです。また、このセーフティーネット事業に加入していることが要件となっている補助事業が多くなっていますので、継続となる漁業者、新規となる漁業者ともに極力、当事業に加入することをお勧めします。

なお、本事業は期中の加入受付がなく、今回の申込時期を逃すと来年度まで加入することが出来ませんのでご注意下さい。

【主な予定】

- 3 月 17 日(金)
 - ・三重県漁協役職員研修会(津)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。